

安全・安心 まちづくり 通信



山梨県企画部県民室県民生活課 甲府市丸の内 1-6-1

055-223-1547

平成 19 年 8 月



私たちの活動を紹介します!



山梨地区ふれあい連絡会

山梨市

山梨小学校区にある落合駐在所を拠点として自主防犯活動を繰り広げる山梨地区ふれあい連絡会は、児童の下校時の見守り活動を行っている。

果樹農家が多いこの地域で、ぶどう盗の被害が相次いだ平成 16 年秋、落合駐在所の堀口巡査部長は犯罪を食い止めるため、全 9 区の区長経験者に声をかけ、呼びかけに賛同した 12 人で、山梨地区ふれあい連絡会を、同年 12 月に立ち上げた。

発足以来、会費で購入した揃いのベストや腕章を着け、ぶどう盗のパトロールをはじめ、市の花火大会におけるパトロールや、高齢者宅を訪問してチラシ等を配布し、振り込め詐欺や悪質商法への注意を呼びかけてきた。



平均年齢 75 歳と高齢の会員たちであるが、地域を安全にしたいと強く願う気持ちから、それまで不定期に行ってきた山梨小学校児童の下校時見守り活動を、平成 18 年 2 月から、週 1 回行うこととした。定期的に活動を開始するにあたり、自分たちの顔を児童に覚えてもらうため、会員全員が山梨小学校の児童全員を前に、校庭で顔見せを行った。

見守り活動は、ふれあいステーションという通学路の拠点に立つて行く。子どもたちへ「おかえり!」と声をかけながら、安全に下校できるよう見守る。

会員のほとんどが果樹農家であるが、農繁期であっても、お茶の時間を削るなど、都合をつけてふれあいステーションに立っている。

会員たちは、活動を衰退させないために毎月定例会を開き、親睦を深めながら翌月の活動について話し合う。山梨小学校の防犯教室で開かれる声かけ・連れ去り防止訓練や、警察が主催する防犯講話にも積極的に参加し、防犯のための知識を得る努力も欠かさない。

平成 17 年 9 月に、ぶどう泥棒を見つけた地域の住民が、駐在所に通報し、会員と連携して逮捕に至った例がある。また、平成 17 年の落合駐在所管内の犯罪は 80 件ほどであったのが、平成 18 年には 50 件ほどに減り、今年は 6 月末までの半年間で 7 件しか発生していない。明らかに犯罪が減っている。

「山梨地区ふれあい連絡会の活動が地域に浸透し、定着していることの現れではないか。」と、堀口巡査部長は言う。

さらなる犯罪の減少を目指し、山梨地区ふれあい連絡会は、これからも地域の安全・安心を守り続けていく。

登山スポットとして有名なみずがき山など、奥深く美しい景観に恵まれた北杜市須玉町。平成16年に市町村合併し、町から市へと生まれ変わった。

大きな市に変わっても、地域の子は地域で守ろうという思いのもと、青少年育成須玉地区民会議が子ども見守り活動ボランティアを募集した。平成18年4月、集まった34名で、「須玉パトロールボランティアの会」を結成し、活動を開始した。

須玉町内では、通学にスクールバスを利用する小中学生が多い。

活動は、徒歩通学の子どもを家まで見守る人、スクールバス通学の子どもをバス停から家まで見守る人、庭先や玄関先に立って子どもの様子を見守る人などに分かれて行っている。

活動開始当初は、子どもにあいさつをしても返事がないことが多かった。しかし、「見守り活動を続けるうちに、子どもからあいさつが返ってくるよう

になり、家族の話までしてくれるようになった。子どもたちから元気もらっていますよ。」と、会員たちは顔をほころばせて語る。



午後、子どもたちの下校時刻になると、防災無線が流れる。須玉教育センターが「これから児童生徒が下校します。地域の皆様方の暖かい目によって、子どもたちの下校を見守っていただけますようお願いいたします。地域の子どもは地域で守りましょう。」と呼びかける。この放送が会員たちの見守り活動開始の合図となる。また、会員ではない住

民も農作業の手を休め道路へ立ち、家事を中断して庭先へ出る。住民と行政が一体となり町全体で防犯に取り組んでいる。

会員たちの意見交換会の場で、参加した警察署員から助言をもらうなど、自分たちの活動を省みることも怠らない。防災無線での放送も、この意見交換会での意見をもとに始まった。

見守り活動を始めてから、須玉地区では不審者が減ったという。新たにボランティアを募り、平成19年4月には会員が54名に増えた。今後も地域の子どもたちの安全・安心を見守っていきたくないと張り切っている。

かくゆう

鶴友懇話会

富士北麓・東部地域

富士北麓・東部地域の企業経営者たちがつくる「鶴友懇話会」は、地域を安全で安心なまちにしようと、青色回転灯を装着した車両で自主防犯活動を行っている。青色回転灯装着車両（青色パトロールカー）とは自主防犯活動用に青色回転灯を装着することを公安委員会から認められた車である。

「鶴友懇話会」は、平成元年に発足した会員数670名の企業経営者の団体である。これまで講演会、勉強会、県外企業の視察など活発な活動を行ってきた。

平成17年末、広島、栃木両県で起きた児童を対象にした凶悪事件を契機に、地域の安全・安心を守ろうと防犯部会を立ち上げ、平成19年2月、地元金融機関の協力を得て、青色防犯パトロールを始めた。

週5日で富士北麓・東部全域をパトロールできるようにスケジュールを組んでいる。パトロールカーには、山梨県警察本部長が発行するパトロール実施者証を持つ者を含めた2人で乗車することになっている。「パトロールカーは走れば走るほど犯罪抑止につながるから、もっとたくさんの会員に実施者証を取得してもらい、地域をくまなく回りたい。」と会長の加藤隆さんは言う。

加藤会長は、「能動的に働きかけながらパトロールすることが大切です。車で巡回するだけでなく、『ただいまパトロール中です。』とスピーカーから音声を流すことによって、犯罪者を寄せ付けず、また住民にも防犯意識を喚起することになる。」と熱心に語る。